



ホア ビン (平和)

HOA BINH レポート

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405, TsujiBLD, 333, Yamabuki-cho, shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://jvpf.org info@jvpf.org Tokyo

45 号

会費/正会員:(個人)5,000円 (団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキュー)店(当座)0188872

NPO・JVPF 第11回総会報告

日越交流拡大の下で問われる J V P F の役割を討議

5月26日(土)ルポール麹町(東京)でJVPF 第11回通常総会が開催されました。総会に先立って開催された第21回理事会では議案書の「在日技能実習生が増える中で多くの問題が生じてきており、サポートを考えましたが進展しませんでした」の指摘に「具体的に何がサポートできるのか」が問題提起されました。まず「留学生・技能研修生」の実態、制度や受け入れ側の問題などを正確に把握することから始めようとなりました。

第11回通常総会は、宝田理事長代行の議長で開会されました。村山会長は「アジアでのベトナムの役割は大きい。日本・ベトナムの友好関係を強めるためにJVPFの発展を」とあいさつ。来賓のベトナム大使館ソン公使から「5月29日からベトナム国家主席が訪日します。訪日・訪越や留学生・技能研修生も増えて、日越の関係は強まっています。JVPFの枯葉剤被害者支援・奨学金は日越友好に貢献しています。今後、留学生へのサポートもお願いしたい」とJVPFへの期待を寄せられました。

総会議案が提案された後、各地の活動が報告されました。

平松さん(埼玉):『仁愛の家』27軒目を建設中です。建設不足分を借金をして建設している家があって「借金をさせないでくれ」と強く言われ「自分が死んだら誰が返済する

のか」と泣かれました。「借金をさせませないよう支援する」と確認し合いました。

辻さん(時遊人):2017年の活動は、文具 52,904 個、奨学金 22 人、ランドセル 89 個をふえみんとも協力してベトナムに届けました。また、ピースボートと提携して寄港地にも届けています。

赤木さん(広島):HVPF結成10周年を迎え一般社団法人へ移行します。新入生20名の奨学生(毎年60人)を安定的にサポーターキープすることは大変です。支援基金のために古本募金を始めました。読み終わった新しい本を5冊以上送ってください。

飯塚さん(ふえみん):米軍による無差別虐殺のソニミ村の視察をメインにしたツアーを参加者30人で実施しました。焼かれた家、農民・米兵の足跡と虐殺の跡が残っていました。また貧困児童のため文具を持参しました。

総会は、全ての議案を満場一致承認して、第22回理事会で事務局員を選出しました。その後開催された懇親会では、村山会長を囲んで親睦を深めあいました。

(総会議事内容は5P)



村山富市会長を囲んで。会長の左隣は駐日ベトナム大使館グエン・チュオン・ソン公使参事官

本号の内容

- ハザン省奨学金支援 / 2 P
- ハザン省で枯葉剤被害者家庭慰問 / 3 P
- ラムドン省奨学金支援 / 4 P
- 第11回総会報告・財政関係報告 / 5 P ~
- 探訪雑感「ベトナムの一月」秘境から / 7 P
- 広島HVPF報告「45周年事業」 / 8 P
- 留学生から便り / 8 P
- 掲示板 / 6 P

((付)本号の送付にあたっては旅行社アイエフシーから送料の一部便宜供与を受け、アイエフシーから依頼のツアー・チラシ(キューバ)を同封しています。

2018 春 JVPF 訪問団報告

～ハザン省で少数民族学生奨学金支援、枯れ葉剤被害者支援の旅～

ハザン省

一期生 2 年目、二期生 1 年目の奨学金贈呈

川畑 匡 (JVPF 宮崎支部)

ハザン省ヴィ・スエン郡の少数民族出身中学校生徒への奨学金支援事業の 2 年目は、2018 年 1 月 12 日出発、同 17 日 (16 日) 帰国の日程で、事務局を除く 5 人の訪問団で実施されました。ハザン市自体がノイボイ空港から車で、途中休憩を含め、6 時間余要しますので結構ハードですし、今回は、後述しますが、北の果てのドンパンまでの観光もあり、皆さんお疲れではなかったかと思います。でも、主目的の奨学金贈呈式、枯れ葉剤被害者宅訪問もとどこおりなく終えることができました。生徒たちとの楽しい出会い、少数民族の皆さん方の賑やかな市も体験でき、心に残る訪問ではなかったかと思います。

以下、雑な文章で、しかも個人的感想文という形になり申し訳ありませんが報告致します。

楽しかった生徒たちとの再会

「医師になって貧しい人を助けたい」(二人の生徒)、「警察官になって国を守りたい」、「学校の先生になりたい。学校に行けない子供が多いのでその子供たちを教えたい」、「歌手になりたい」(仲間の生徒も皆んなびっくり。笑い)、「科学者になりたい。数学が好きなので」、「日本語を勉強してガイド(通訳者)になりたい」(二人の生徒)、「公安の職に就いて人々

を守りたい」、「中国語と日本語を勉強して通訳者になりたい」・・・

10 人の生徒たちの将来への想いはすがすがしいもので、昨年初めて会った時より心身とも成長していたように思えました。

新潟から参加の角山さんの書道パフォーマンスは楽しかったです。ホア・ピン・レポートで読んだことはありましたが、見るのは初めて。角山さんが半紙に、毛筆で次々と漢字を書かれる。幸、成功、平和、元気、福、財等々。生徒たちはその中から好きなのを手に取る。縁起物として、テト(2018 年 2 月 11 日～20 日)に家の中に飾るそうです。女生徒の My ちゃんは、最初、「財」を手にしましたが興味がなさしく別な書を探し始めました。その時でした、私の左方向から「ミー、ミー」と女性の声が聞こえました。My ちゃんは、そちらを見て、やや不満そうに、「財」の半紙を手にしました。10 人全員で書を掲げた時は笑顔になっていましたが、私は笑いがこみ上げてきました。でも、お母さん(?)にしてみれば、ハザンの置かれた現状から考えて、それなりの願いだったのかもしれないと後刻後悔の念が湧きましたが、それはそれで、ほのぼのした時間でした。



一期奨学生の希望した漢字をプレゼントし大好評。テト前の良いプレゼントになった

先生たちとも意見交換してみたい

新しくサポートを得た 1 年生 10 人は、2 年生に比べるとやはり初々し感がありました。この生徒たちのサポーターにフィリピンからも参加があったと聞き、私個人としては良いことだと思います。JVPF 宮崎支部は 2 年生 10 人のうち 5 人をサポートしています。この 5 人の生徒及び他の 5 人の生徒、そして、今回新しくサポートを受けることとなった 10 人の生徒たち全員と、お互いが元気で次回会えることを願っています。

なお、今回は短時間でしたが、生徒たちとの交流の場があり良かったと思います。要望を言えば(個人的で申し訳ないですが)、先生たちともう少し意見交換できないものかと考えます。前回若干の時間はありましたが私としては、時間不足の感は免れませんでした。ただ、サポーター制度の限界がどこまでかわからないので、無理を言っているとしたらご容赦下さい。

考えること

サポーター制度のできる範囲はどこまでか、と上述しました。結局はこのことと関連してきますし、夏目漱石の「草枕」の冒頭にあるように、「情に棹させば流される」のかもしれませんが、4 年間の支援が終わる時、「はい、さようなら」となるのでしょうか？

今回初めて聞いたのですが、卒業式は 5 月、その後に全国一斉の試験があって、その結果によって生徒たちの進路は大方決まるとのことです。しかし、生徒たちがどういう選択をしたかは、学校側は何もわからない、前もっての



1 年生 10 人、2 年生 10 人の奨学生たちと

進路指導の制度もない、となると、寂しい気がします。もともと、生活が厳しい生徒たちが支援の対象者となっており、もしも高校に進学できないとしたら、と考えてしまいます。高校生への奨学金支援の場合と何となく違うような思いがします。貧しい環境に置かれていることは生徒たちの体に染み込んでいます。その環境の中から生徒たちが、しかも、日本からの訪問団、校長先生をはじめ先生たち、保護者を前に緊張していたに違いない生徒たちが、将来の希望・夢を述べる。その純な想いはどう実現されていくのだろうか。かつての私たちがそうであったように、高校に進学する者と就職列車に乗っていく者とに分かれた、ベトナムの子供たちもそれと同じ道を辿っていくのだろうか。否、それでも私の育った 40 数世帯の貧しい半農半漁の里でさえ、学校に行かない子供はいなかった。

おそらく、ベトナムの、とりわけ少数民族の子供たちは同じような境遇にあるのだろうと想像します。2 回の訪問で何がわかるかと言われれば、その通りですが（個人的には過去 3 回訪問）、子供たちが抱える問題を通して、ベトナムが背負っている社会・政治問題の苦しみを垣間見た気がします。

でも、次は 3 年次、生徒たちと早く会いたいですネ。少しは情に流されてもいいのでは？

ハザン省 枯葉剤被害者家庭調査・慰問 “私の体の中では戦争が終わってない”を追う

VAVA（枯葉剤被害者協会）ハザン支部のリンさんとタイさんに同行していただき 2 軒のお宅を訪問しました。

HA GIANG 市 QUANG TRUNG 区
Nguyen Thi Van(グエン・チ・ヴァン 女性 39 歳)
戦時、激戦地域の中部ダナン、クアンナムで従軍した父親と 39 歳の娘

報告：鳥飼 謙二

ダナンの戦役に 5 年間従軍しその後建築関係の仕事をしていたという父親（75 歳）と長女（39 歳）にお会いしました。母親（71 歳）は病気がちのことですが、従軍前に生まれた長男（49 歳、自営）と次男（41 歳、農業）は健康で独立しており、現住



居も二人の援助で建てられたとのことでした。

※次男が 41 歳ということは、1977 年生まれということになり、父親が「次男は終戦前に生まれた」と証言したこととつじつまが合わない。多分、次男は「帰省後生まれた」ということでないかと思われる。

※ベトナムでは戦後復興で枯葉剤散布地に出向いた軍隊参加者も多く被災している。

被害当事者である長女は、視力障がいのためか教育を受けてなく、又知的障がいもあるように感じました。食事は自立しているが、排せつは母の介助を受けているとのことで、月 141 万ドン（約 5300 円）の年金を受給しています。父親は額についての不満は

言いたくないと国に対する配慮が伺われました。

前年訪問した重度心身障がい者の

方と比較するとやや障がいの程度は軽いなと思いましたが、彼女の健康を奪った枯葉剤爆弾の投下の責任をアメリカと生産企業であるモンサント社には果たして貰いたいと思いました。

HA GIANG 市 NGUYEN TRAI 区
Nguyen Le Do Luu(グエン・レ・ドゥ・リュウ 女性 34 歳)
髪の毛で隠していたが“耳がなかった”

報告：角山 優子

1 月 15 日（月）ハザン省で枯葉剤被害者の Nguyen Le Do Luu(グエン・レ・ドゥ・リュウ 女性 34 歳)の家庭を訪問しました。

- ・このお宅では、私たちの訪問のわずか 1 週間前にご主人が 71 歳で亡くなったばかりで、家は母親（Do Thi Hai Panh 61 歳）と被害者の彼女の 2 人暮らし。
- ・父親（Nguyen The Kieu 享年 71 歳）：少数民族タイ族、ハザン出身。1968 年～1975 年、中部のクアンチ、ダクラクで従軍。その後、定年まで軍隊勤務し 1985 年退役。1997 年までホーチミン市近くのブンタオに住み、その後ハザンに帰省。枯葉剤被害傷痍軍人として認定受け生前は月：700 万ドン（35000 円）ほど政府からもらう。死亡した現在は支給されていない。生前は暑い時には体のかゆみを訴え、痰も止まらなかった。
- ・母親：1978 年～1981 年に軍隊勤務。現在、年金 220 万ドン（11,000 円）。
- ・兄弟：当人と兄の 2 人。兄は 1982 年生まれ。目が良くない。現在、政府機関勤務。兄には子ども 2 人（男、女）いる。現在、元氣。
- ・当人：障害が顕著で、耳の形が無く耳が聞こえない。手術を試みたが不可能だった。目も悪い。枯葉剤被害者として月：141 万ドン（7000 円）政府から支給。小学校を卒業、現在 1 ヶ月に 10 日間ほど縫製の仕事をし、月：100 万ドン（5000 円）ほどの収入。

新しく立派な家の居間でお話を聞いて、住まいが確保されていることに安堵しながらも、娘さんのこれまでの生



き様、また将来ことなど、考えれば考えるほど不安と憤りがこみ上げました。言葉少ない静かな母子の暮らしに私たちの訪問は一陣の風のようなもの。日本から持参したお菓子は食べて頂けたかなと今もふと思い出します。

2018 春 JVPF 鹿児島 ～ラムドン省で少数民族学生奨学金支援

2013 年度から開始されたラムドン省での奨学金支援事業（年額 18,000 円、新入 1 年生 10 人×3 ヶ年）も 2017 年度で 5 年目となりました。

2018 年 1 月 19 日、JVPF 鹿児島支部が就学支援を行っているラムドン省ダラットにあるラムドン省少数民族高校に行き、5 年目となった高校生への奨学金授与式を行いました。

今年は、新 1 年生 10 人をはじめ、2 年生 10 人、3 年生 9 人計 29 人への奨学金授与でした。毎年 10 人としていましたが、昨年 1 人が家庭の事情等で退学せざるを得なかったとのことでした。その前年にはさらに 2 人の退学もありました。学費は無償で一定の生活費も支給されているのですが、少数民族家庭の生活の厳しさを改めて感じています。

今回の授与式には、JVPF 鹿児島

支部から川路と山下の 2 人と、JVPF 本部から 2 人、ベトナムのルオンさんの 5 人が参加しました。

学校では、新しい女性の校長先生に大歓迎をしていただき、学校が自前で作っているビニールハウスの農園の案内や、学生の寮も案内していただきました。また、授与式には全校生徒約 500 人ほぼ全員が参加していただき、学生による民族舞踊や歌などでの歓迎もあり盛大なものでした。

授与式で、校長先生は、「各民族の文化を守り、かつ国の発展にも寄与するため勉強は大事だ」お礼の挨拶をいただきましたし、奨学金を受けている生徒代表も、「まじめに勉強し、国や自分の町の発展にも尽くした。頂いたお金だけでなく気持ちも受け止

めて頑張ります」という決意を込めたお礼の挨拶もありました。

また、授与式終了後、奨学金を受けている生徒全員との対話も出来ました。手紙のやり取りもするということや、特に 3 年生の将来への思いも聞かせてもらいました。ほとんどの生徒が、大学を目指すという決意でし、「法律（弁護士）」は 3 人、ほかに「マーケティング」「英語の通訳」「文化芸術関係」「医学部」「警察」「会社経営者」など学びたいことははっきりと表明してくれまして頼もしく感じました。

今回も、高校生の活き活きとした表情や向上心に燃えている雰囲気を感じながら、就学支援をしてよかったとの思いを強くしました。

（JVPF 鹿児島支部 川路 孝）



寄稿

卒業した奨学生を訪ねて

山下 順子

少数民族出身学生奨学金支援は 2005 年からハノイ郊外のハタイ省（現在、ハノイ市と合併）で始まりました。当初から支援を続けてこれられている山下さんは彼らが卒業後も交流が続けられています。

うちの 2 人に会うためハノイに行きました。2 人とは就学支援を始めた時から手紙の交換をしており、家族の皆さんとも年 1 回の訪問で交流を深めています。

私の最初の支援生であるリンさんは現在 26 歳。すでに結婚し 3 歳の男の子のお母さんです。住まいはハノイ郊外のハタイです。リンさんの家に着くとリンさん夫妻、夫（フイさん）のご両親など親族一同に笑顔一杯で迎えていただきました。昼食は日本の友人が訪ねてきてくれたと、鍋料理で歓迎してくださり、自家製の焼酎で乾杯しました。以前は満腹になっても料理を次々と皿に盛られ、歓迎の印だと解っていてもとても戸惑いましたが、今回は私の好きなように食べさせてもらえました。

私はリンさんが 15 歳（高校 1 年生）の時の写真を持参しておりましたので、当時を語り、会話が盛り上がりました。食事の後、フイさんが是非とも見てもらいたいと勤務してい

る戦争遺品の展示施設を案内してくださいました。まだ未整備の状態でしたが、フイさんの熱意が十分に伝わってきました。

ツェンさんは 23 歳の男性です。ブート省の少数民族高校、小学校の先生になるための専門学校を卒業しました。しかし財力もネットワークも持っていない彼は夢の教師はあきらめざるを得ませんでした。実家の農業に従事しながらハノイ郊外で季節工として家屋の配電等の仕事についています。挫折をバネに誠実に飛躍してほしいと願っています。



彼とは、鹿児島大学に留学した卒業生たちも誘い一緒に夕食をしました。私は仕事や家族の様子など聞き取り、少々立ち入りすぎかなと思いつつ彼女はいるかなどと質問すると顔を赤らめながらも応えてくれました。

短時間ではありましたが二人の暮らしぶりを垣間見て、自分の置かれた環境の中で健気に元気に過ごしていることを嬉しく思いました。あわせて改めて都市と農村の経済発展に大きな格差のあることを実感する日でもありました。

NPO・JVPF 第 11 回総会報告

2017 年度事業報告

【組織活動】

1、2017 年度は JVPF 活動開始 17 年目（結成 1999 年）となり、NPO 移行 10 年目の年でした。参画いただいていた方々のリタイアなどあり活動体制の調整をしながら進めてきた一年間でした。

2、組織の強化発展のための活動について——略

3、各支部及び友誼組織の活動について——略

4、留学生紹介幹旋事業は 2017 年度（2017 年 4 月～2018 年 3 月）——略

【事業】

1、教育支援事業（1）——少数民族出身高校生奨学金支援

JVPF 及び広島 HVPF は以下のように少数民族出身学生奨学金事業を行ってきました。

①北部ハザン省での 2 年目の支援事業を実施（2018 年 1 月）。これは宮崎 JVPF 支部が中心になって進めています。

②ラムドン省で鹿児島支部（2018 年 1 月実施）が四期目 10 人の奨学金を開始しました。現在 30 人

③クアンチ省で広島 HVPF が（2017 年 10 月）九期目 20 人の奨学金を開始しました。現在 60 人。

この少数民族出身学生奨学金事業とは別の形で会員の方々は、それぞれ支援事業を進められています。（一社）時遊人はナンディン省などで、「ふえみんベトナムプロジェクト」はダナンで。

2、教育支援事業（2）——村山記念 JVPF 日本語学校

①ベトナム人の日本への留学増は目を見張るものがあります。独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）のデータでは 2017 年度、61,671 人（うち日本語学校 26,182 人）となっています。この状況下で留学に際して正確な事前情報が得られていないことから「生活困難」「進路変更」などの問題が生じています。

村山日本語学校設立時と同様の問題が生じており、JVPF としてどのような役割を果たすべきか検討していきたいと思っています。

JVPF が手掛けた留学生幹旋事業はその一つとして位置付けていき



来賓としてご挨拶いただいたグエン・チュオン・ソン公使参事官

いと思います。

②村山記念 JVPF 日本語学校は、高校での出前日本語講座など多岐にわたる活動を行い発展してきています。大きく発展した要因は行政と提携した公立の中学校、高等学校での出前の日本語講座開設などがあります。

2017 年 11 月時点で、学生数 565 人、うち社会人 122 人、学生（中高生）443 人、先生とスタッフの数 12 人（事務所 2 人、先生 10 人）。

3、国際協力事業（1）——枯葉剤被害者支援のための活動

①2018 年 1 月実施した JVPF の訪問団はハザン省で 2 軒の被害者家庭を慰問してきました。

②ホーチミン市ドックさん（以前、トゥドゥ病院在籍）への生活支援として 1

000 ドル（JVPF500 ドル、金光秀人理事 500 ドル）を寄付しました。この他、福岡 JVPF、広島 HVPF も別途寄付をしています。



支援金を手渡す金光秀人理事とドクさん

③埼玉 JVPF は 2017 年 7 月にクアンナム省への訪問団を実施し、寄贈してきた枯葉剤被害者のための「仁愛の家」は 25 軒になりました。ちなみに 1 軒に占める寄付額は 25～30 万円となっています。ベトナム国内のみならず海外からも注目されるに至っています。

④2015 年 9 月に完成しました枯葉剤被害者追跡記録 DVD 第 3 版『トアとトゥオン』が日本科学技術振興財

理事長就任あいさつ

宝田 公治

第 11 回通常総会で、新しく理事長に就任しました宝田です。長年理事長を続けてこられた大西さんの後を引き継ぎ、がんばってまいりますのでよろしくお願いします。



私は長年自治労香川県本部の運動をし、現在は全国自治体政策研究会や自治労香川県本部の顧問として活動しています。大西さんの後輩でもあり、JVPF の活動には発足当初から少しですがかかわってまいりました。

さて、JVPF は発足から 18 年目、NPO 法人移行 11 年目を迎えることになりました。枯葉剤被害者支援から始まった活動も、奨学金支援、日本語学校など多岐にわたり、組織も多数の支部結成など拡大してきましたが、新たな課題も山積しています。

今年は、日越外交樹立 45 周年の年になります。そして、2020 年は JVPF 結成 20 周年を迎えます。これら記念すべき年を契機に、JVPF の活動を皆さんと一緒に発展させていきたいと決意しています。

団の第 58 回科学技術映像祭「自然・暮らし部門」部門優秀賞を受賞しました（2017 年 4 月）。

2017 年 6 月、東広島で上映と監督・鈴木伊織氏の講演がおこなわれました。9 月には映画雑誌「キネマ旬報 9 月」に紹介掲載されました。

4、国際協力事業（2）——ベトナム民族アンサンブルチャリティーコンサート

22 年目となった 2017 年度は、10 月 17 日～29 日の期間、11 開催地で実施。うち、青森では昼・夜公演、宮古市で東日本大地震被災地復興祈念植樹跡訪問（2011 年 10 月に祈念植樹しました）、フクシマ原発事故被害者との交流会、を行い 10 月 30 日に離日致しました。来場者は約 2,200 人、チケット購入協賛者は 4,000 人ほどとなりました。また、埼玉・川口ではオペラ歌手の角田和宏さん、東京・世田谷では日本人の隻腕のギタリストの橋本道範さんにゲストとして参加いただきました。

5、国際交流事業（1）——日本語研修 村山日本語学校の 10 周年記念とし「2017 日本語夏期研修」が 7 月 4 日から実施され 17 人参加。村山会長と接見も実現しました。国会、法政大学、東京国際大学付属日本語学校を視察し、ホームステイによる交流を三島市（松浦正美副会長手配）で行いま

た。

6、国際交流事業（２）——文化・スポーツ交流

2016 年のベトナムアンサンブル福山市及び西東京市公演で協賛参加いただいた隻腕のギタリスト橋本道範さんとベトナムの隻腕のギタリスト・グエン・テ・ビンさんの提携で日越交流コンサートが 2017 年 4 月 22 日、ホーチミン市で実現しました。このチャリティーコンサートには多くのホーチミン市の音楽家や日本から音楽グループ ESPERE UN POCO も協賛参加し、益金は河上総領事の手からビンズオン省の「孤児と障害者のための学校」（校長：グエン・テ・ビン）に贈呈されました。また、この公演にはベトナムアンサンブル西東京公演の収支残金も活用されました。

7、その他の事業（１）——会員及び企業の事業及び事業展開への「情報提供の事業」

- ① 在日技能実習生が増える中で多くの問題が生じてきており、サポートを考えましたが進展しませんでした。
- ② ビンフオック省の依頼を受け農業技術研修生受け入れ事業を検討し関係者と協議しましたが進展しませんでした。

2018 年度事業計画

【組織活動】

- 1、2018 年度は日越外交樹立 45 周年の年となっており、JVPF の活動を一層発展させる年にしていきたいと思います。同時に、2020 年の JVPF 結成 20 周年に向けた諸事業を準備していきます。
- 2、組織の強化発展のための活動について
 - ① 認定 NP0 への移行の件は、そのため会員登録数などの条件整備を進めていきます。
 - ② 会員拡大及び支部組織作りを進めます。
 - ③ 会報『ホアビン』及び会員連絡報を協力者や会員の活動交流の場として充実

させていきます。

- 3、各支部及び友誼組織の活動については、地元に密着した一層創意工夫ある活動促進に努めていきます。
- 4、各事業以外の活動として、JVPF の趣旨に沿った留学生斡旋事業、及び在日留学生へのサポート、ケアなどの活動を行っていきます。

【事業】

- 1、教育支援事業（１）——少数民族出身高校生奨学金支援
 - ① 北部ハザン省での少数民族寄宿中学校への奨学金支援事業の 3 年目をを行います。そのため第三期のサポーター 10 人を募集します。
 - ② JVPF 鹿兒島支部のラオドン省少数民族寄宿高校での奨学金支援活動をサポートします。
 - ③ 広島 HVPF のクアンチ省での少数民族学生への奨学金支援活動をサポートします。
- 2、教育支援事業（２）——村山記念 JVPF 日本語学校

当校が、設立趣旨に沿い日越の若者の橋渡しになる様その活動をサポートしていきます。
- 3、国際協力事業（１）——枯葉剤被害者支援のための活動
 - ① JVPF 設立の柱である支援活動を調査・慰問を通じて続けていきます。
 - ② 同時に、さいたま JVPF の「仁愛の家」寄贈活動や各支部・会員の活動をサポートしていきます。
 - ③ 枯葉剤被害者追跡記録 DVD『トアとトゥアン』の上映活動を進めていきます。
- 4、国際協力事業（２）——ベトナム民族アンサンブルチャリティーコンサート

コンサート開催にあたっての JVPF の協力活動は JVPF の収入上でも大きな位置をしめていますので、活動の柱として継続していきます。

5、国際交流事業（１）——日本語及び日本研修

村山記念 JVPF 日本語学校が企画する訪日研修団を受け入れていきます。

6、国際交流事業（２）——文化・スポーツ交流

2017 年 4 月の隻腕のギタリスト橋本道範さんのホーチミン公演に引き続き、2018 年 5 月にはオペラ歌手角田和宏さんがホーチミン国立音楽大学で声楽の指導をするため出向きます。こうした草の根の交流をサポートしていきます。

7、その他の事業（１）——会員及び企業の事業及び事業展開への「情報提供の事業」

会員や友誼的企業の要望に沿い、日越の橋渡しを務めていきます。

2017 年度活動計算書

I 経常収益	2,631,965
II 経常費用	2,424,693
当期経常増減額	207,263
前期繰越正味財産額	-148,523
次期繰越正味財産額	58,740

2018 年度活動予算書

I 経常利益	2,950,000
II 経常費用	2,920,000
当期経常増減額	30,000
前期繰越正味増減額	58,740
次期繰越正味増減額	88,740

2017 年度貸借表

I 資産の部	
1. 流動資産	224,614
現金預金	57,114
未収金	167,500
2. 固定資産	0
II 負債の部	
1. 流動負債	165,874
2. 固定負債	0
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産額	-148,523
当期経常増減額	207,263
正味財産額	58,740

掲示板

● 今年は日越外交関係樹立 45 周年でいろいろ計画したいところですが、組織体力が整わず主催企画ができません。宝田公治新理事長の下、これまでの活動をより実りあるものにしていくことにしたいと思います。

- JVPF 東京は 8 月 8 日（火）、枯葉剤被害者追跡記録映像『トアとトゥアン』の上映と映像作家・鈴木伊織さんの講演を行います。

東京シビックセンター展示室 18 ; 30 ~

- 埼玉 JVPF は 8 月 6 日から中部クアンナム省での枯葉剤被害者支援のための訪問団を派遣します。
- 埼玉 JVPF 副会長の平松伴子さんはクアンナム省で 8 月 19 日開催の日越 45 周年記念イベント「クアンナム省の人たち—日本との友好交流」に招待され、現地に赴きます。
- 8 月 9 日、ベトナム友好委員会全国連合が東京で「日越 45 周年イベント」を計画。JVPF に参加要請。
- 広島 HVPF は 10 周年を期して一般財団法人へ移行。45 周年記念事業として 10 月 15 日から訪問団を計画。詳細は 8 P 掲載。
- 23 年目となるベトナムアンサンブル枯葉剤被害者支援チャリテ

イーコンサートは 10 月 16 日～10 月 30 日の期間計画。今年は 45 周年記念の日越交流の冠事業として行います。

開催箇所が不足です。ご協力をお願いします。

2018 年度ベトナムアンサンブル公演日程調整表

◎10月16日(火)	鹿兒島・日置市/中央公民館中ホール
◎10月17日(水)	宮崎・日向市/中央公民館ホール
◎10月18日(木)	熊本市/森都心プラザホール
◎10月19日(金)	長崎市/チトセピアホール
◎10月20日(土)	福岡市/西南学院大学チャペル
○10月21日(日)	大分県内
○10月22日(月)	(調整日)
△10月23日(火)	四国B内
○10月24日(水)	関西B内
◎10月25日(木)	香川・まんのう町/町民文化ホール
◎10月26日(金)	奈良市/学園前ホール
◎10月27日(土)	大阪市/生野区民センター
○10月28日(日)	(未定) ※Bはブロック
○10月29日(月)	(未定) ※7月1日時点
◎10月30日(火)	埼玉・東松山市/市民活動センターホール

- 枯葉剤被害者家庭慰問・調査団は 2019 年 1 月計画。
- 2018 年度の少数民族学生奨学金支援贈呈訪問団は 2019 年 1 月実施。詳細は 9 月発表。

探訪雑感

宮崎 勇雄

ベトナムの一月（雑感）

JVPF 理事・宮崎勇雄さんは、奨学金支援や枯葉剤被害者慰問などで数え切れないほどベトナムを訪問されている。活動報告は別人に譲り、今回は 2018 年 1 月実施の訪問団の行程を紹介しながらベトナム・スケッチしていただいた。

運転手のハオさん

ベトナム訪問時の移動手段はマイクロバスである。空港から離れ先ず自己紹介から始まる女性現地ガイド、運転手の名前は紹介されるものの訪問の先々、食事時の要望など訪問団の通訳と世話をされるガイドの役割は極めて大きい。

何と言っても流暢な日本語が、未知のベトナムに好感を与えかつ親密感が自然と湧いてくる。しかも JVPF ハノイ駐在員、時にはジョークを飛ばし皆を笑いの渦に巻き込んでいく。だが、日本語を解せない運転手は訪問団と一線をすくし、淋しい存在となってしまう。長時間の移動ともなれば団員相互の交流や情報交換の場となり、昼食後の走行は睡眠すら始まり車内は静まりかえる。

適度な振動と満足感に満たされ、すっかり運転手の技量に全身を委ねてしまう。表向きの民間大使がガイドなら、隠された大使は何と言っても運転手である。団員の全生命を一手に引受け、決められた訪問先へ時間通りに到着させてゆく。ドライバーの使命は遠い日本からの友人を安心・確実に送迎することにある。



いつでも、どこでもフォーは美味しい。ハザンへ向かう途中で

一月の訪問時の運転手はハオさんと言った。奥様は教員をされているという。ハノイを離れ私らを 4 日間、ベトナム奥地の秘境と言われるハザン省へ送ってくれる。簡単な食事をとり 6 時間を要した。ハオさんの運転は町に入ると優しくスローなのに、郊外へ出るとスピードを上げ遅いトラックなどタイミング良く見事なハンドル裁きで追い抜く。その技術は実に鮮やかで、優秀なドライバーに出会い感心と感謝で一杯である。

ハザン省の省都ハザン市に入り、夕食の後ホテル到着は午後 10 時半となった。翌朝、ホテル周辺に迫る岬々たる石灰岩の山

に驚きもしたが、凜とした風が町に溢れ裏通りに露天商が並び寒い早朝から活気を呈していた。

可憐な中学生たち

ベトナム人の 8 割以上はキン族で、あと 54 の少数民族で構成されている。キン族が多く占める中でハザン省では少数派、それだけに数多くの少数民族種族が暮らす辺地とい

うことを物語っている。省の北半分が中国を突き刺すように国境を接し、岬々たる石灰岩の山は中国にまで達している様子である。省は 10 の郡と 1 市があって、今回はヴィスエン郡の少数民族中学校を訪ねる任務がある。

2 年目を迎える少数民族中学生に対する奨学金支援のための訪問である。ハザン市から南に位置するも 30 分を要し、校長はじめ民族衣装に扮した生徒と保護者から盛んに歓迎せぬに合う。民族によって多少違うが、黒を基調とした赤い文様が実に艶やかで周辺の緑に映えている。

贈呈式で 2 年生の 12 歳 10 名、1 年生の 11 歳 10 名にそれぞれ奨学金を渡し万雷の拍手に包まれる。出身民族はタイ族、ハン族、ラオ族、ヌン族、ダオ族、モン族とバラエティーに富んでいて、成績の優秀な生徒が選ばれているようだ。晴れの贈呈式に出席した保護者達も、我が子の成長に感慨無量の様子。

中学生たちは全員が寄宿生活で、ご両親はこの日のために遠い山間からバイクタクシー等で間に合わせたのだろうか、全員が前泊かなと想像したりした。11~12 歳と言えば可愛い盛り、成長期と重なって食欲も旺盛であろう。それにしても、何とも可憐であり抱き締めた衝動に駆られる。

学校を去る際、心付くめの大きな蜜柑が段ボール 2 箱が保護者から贈られ訪問団の水分補給に大いに役に立ったことは言うま



ベトナム最北ハザン省のまた最北秘境ドンバン（石の高原）を訪ねた



担当の奨学生と出会

でもない。因みに、ハザン省の沿道は蜜柑が山と積まれ地域の最盛期と直感したが、こも早く賞味できるとは思ひもよらず保護者からの温かい心情に熱い思いが込み上げた。

最奥地市場の少女

ハザン省は実に奥深い。省都のハザン市までは対面 2 車線の立派な道路に対して国境に近い奥地へは、林道に毛の生えた簡易舗装の道路。徐々に高度が上がり急なカーブの連続した路になってゆく、何度も大型トラックとカーブで鉢合わせとなるが、さすが運転に自信のあるハオさん急ブレーキも掛けずにスリと交わり私らを安心させてくれる。

ハザン市から 100 km も充たない距離に、峠らしき道を 6 回も越えた。最初の峠は「天国の門」と称し、風の通り道か冷たい風が

私らに襲いかかる。店には乾燥し葉草や効き目のありそうな酒、観光客相手のベトナムグッズが並んでいる。七曲がり峠から七坂を下ると小さな町に入る。両側には岬々たる石灰岩の山が迫り尖った特徴ある山を回り込む次の七曲がりである。突如として現われる対向車に驚くがハオさんは実に巧みである。こんな繰り返しが続いて、目的のドンバンまで 5 時間を要し上下左右に揺れる車で完全にノックアウトに近い。

国境が迫るドンバンで、現地ガイドは公安に治安を確かめに出かけた。ここでも鋭い山はホテルの真裏に迫っていた。日曜の朝、盛大な朝市を目指し出かけるや色んな民族衣装の人達でごった返しており、掛け声や会話の飛び交いで騒然としている。彼らは急傾斜地で一週間の農作業で暮ら

し、晴れの朝市で精一杯の民族衣装に誇りを託し買い物や情報交換に忙しい。

彩りも鮮やかな衣装の少女が夢中で会話する姿に、思わず感動する場面にでくわした。思うに、過酷とも言える農事の日々から解放され、一心不乱に市場で破産する情



少数民族はお母さんも若い。ドンバンの日曜市で

広島HVPF ホーチミン市で45周年お祝いイベントを計画

2009年6月の設立から今年10年目を迎えた。折しも、日越外交関係樹立45周年でもある。設立前の9年を加えると18年余り経、組織と運動の継承・永続化を考えなければならない時期でもあり、2016年12月、「**設立10周年記念事業**」プロジェクトを設置し、3つの記念事業と一般社団法人への移行を準備してきた。

記念事業の一つは、2月に開催した**第10回「テトを祝う会」**だ。二つは7月22日にクオン駐日ベトナム大使を迎えて開催する「**設立10周年記念式典**」および「**大使講演会&歓迎交歓会**」だ。式典には交流を重ねているクアンチ省党委員会のフン書記にもご出席いただく。東広島市や議会、商工会議所、市内4大学など11団体に賛同いただき準備を進めている。三つ目は、10月に実施する「**日本ベトナム国交樹立45周年記念訪問団**」の派遣だ。ハノイ、ハロン湾観光のAコース、クアンチ省での「奨学金授与式」出席、フエ観光などのBコース、ホーチミン観光のCコースと3コースに30名余りの参加を予定している。19日にはホーチミンに集結し、ホーチミン市友好連合委員会やJETROホーチミン事務所、ホーチミン日本商工会議所などの協賛、ホーチミン広島県人会の全面的なご協力をいただき、ベトナム国家大学「講堂」で開催する「祝・日本ベトナム国交樹立45周年記念 in ホーチミン」だ。もちろん、JVPPFにも協賛いただいている。また、ハノイの梅田大使が実行委員長、ホーチミンの河上総領事が副実行委員長を務められている「日越外交関係樹立45周年事業実行委員会」の認定をいただいている。ちなみに両氏とも広島県のご出身である

内容は、東広島を拠点に全国・海外での公演実績を持つ**和太鼓（次郎丸太鼓）・琴・篠笛**とベトナムの民族楽器の競演による文化交流。そして、灘・伏見に次ぐ三大酒所の一つ、わがまち西条が誇る**銘酒やお好み焼き**を味わっていただき、**和服を体験**していただく「**日本味わい体験**」ブースも開設する。

東広島市には5月末、6、597名の外国籍市民が暮らし、日常的に多言語・多文化に接する機会が増え、文字通り国際学術研究都市になっている。中でもベトナム出身者の増加は著しく、中国に次ぐ2番目。1千名に達するものも遠くない。

歴史的な節目を迎えた今夏、一般社団法人に移行する。
(専務理事・赤木達男)

大盛況だった今年のテトを祝う会(2018・2・12)。半年以上前から準備会は4回を数え数えた。



熱が伝わってくる。あの少女の将来に、どんな夢を託しているか輝く瞳に何時までも脳裏から離れず、聖なる桃源郷を後にするのだった。

ハノイで仲間と 出会う

一月の訪問で帰国する前日、ハノイ市内のレストランで越日友好協会のビン副会長と昼食を共にする機会を得た。事務局長とスタッフそれに奥様を連れて、穏やかな笑顔で現われ訪問団と有意義なひとときを過ごした。フランス人が建築した住居だが、今はレストランに変貌し洒落た雰囲気

右からピンさん、奥さん



と佇まいが何とも嬉しい。

食事が進むにつれ和やかさは盛り上がり、中央に鎮座したビンご夫妻が仲良くジュースを飲む姿に一段と大きな拍手が沸いた。気の置ける私らの前だったのか、ビン氏の友好に対する気概と人間愛を心から思う瞬間だった。

天国の門で見つけた、薄い紅色に染まる桃3輪の花がテトを迎えるベトナムの人たちの心意気に似て、何故か胸が熱くなるのを覚えた。

2018年1月29日

留学生の便り

夢をかなえる為に

他の国に留学することは簡単なことではありません。それは若者にとって自分の将来の勝負だと思っています。私は多くのベトナム人と同じく日本を選んで留学生として参りました。最初、言葉も日本の文化もわからずにいるまま生活しました。

多くの留学生は大体二つの事を考えなければなりません。それはどうすれば物価が高い日本で生活がうまくできるか、自分の持っている将来の夢を叶えるのができるか、ということです。留学生は授業の後にアルバイトをせざるを得ないです。アルバイトをすると色々な利点があります。例えば給料があって生活費や学費を支えることができます。さらに、学校以外にアルバイト先でも日本語を使っているから日本語の勉強にもなります。特に人生の経験を重ねることができるのです。しかし、アルバイトだけして疲れて学校へ行けなかったり、学校を寝場所にしたりする留学生も現在少なくはありません。留学する前の志しを忘れかねません。日本の諺には「初心忘れるべからず」があります。その諺通りどんなことがあっても自分の決めた夢を追って一所懸命頑張って叶うまでしなければなりません。頑張ることによって良い結果が出ると私は信じています。ですから、この二つのことにバランスをとったほうがいいと思います。両方とも頑張れば将来がいつかに開きます。

私の場合も例外ではありません。ずっと毎朝新聞配達をしながら学校に通っています。大変なことに多く遭いましたが6年間頑張ってきた結果は来年トヨタに入社します。自分の夢がやっと叶いました。この私のことから日本に留学している学生に「夢を持って、そしてどんな大変にあってもあきらめずにその夢を実現していただきたい」と伝えたい。



便りをくれたLuanさん(写真中央)は、隻腕のギタリストピンさん主宰するピンズオン省「孤児と障害者のための学校」出身。
JVPPF東京が開催した「テトを祝う会」で留学生たちと(2018・2・25)